余話（秘められた箱）

牧野信一

青空文庫

厳格らしい母だつた。

幼時余は、母に、論語を学び、二宮尊徳の修身を聴講し、ナシヨナル・りいどる巻の一に依つて英語を手ほどかれ、和訳すゐんとん万国史を講義された。それらの記憶は、酷く曖昧である。論語では、母のそれでは、友アリ遠方ヨリ来ル云々に就いての解釈を朧気に憶えてゐる。ナシヨナル・りいどるでは、母がそれを購ふ時「なしよなる・りいどるの巻の一……」と云つたので、何やら余は、ハツとしたことを憶へてゐる。「巻の一」といふ響きが、余の姓名のそれと通じた気で、妙なハニカミを感じて、それとなく母の袂を握つたことを憶えてゐる。すゐんとん万国史は、余が稍長じた頃だつたが、たゞその書物の装釘が、灰色に太き金文字を印したる表紙を憶えてゐるのみである。おそらくこれは明治初年版の書物に相違ない。

これに依つても、当時余が、いかに不熱心な母の弟子であつたか、といふことが察せられてならない。当年、海外にあつた余の父から月々送らるゝ様々な玩具、衣類、絵本の類などが今もなほ余の記憶に新しく甦るにも係はらず、如何なれば母の教訓のみが、斯くも朧気に記憶の向方に薄れてゐるか——と、思ふと、われながら不孝の悪徳を愧ぢずには居られない。

「芝居」の類は、観ることなく、余は中学校を終へた。「小説」の存在を知らずに生長してしまつた。

薄暗い納戸の隅の、母の二つの書箱には、何んな書物が蓄へられてゐるのか？　——常々そ

れが、余の好奇心をそゝつてゐた。或る時余は、母に此の質問を放つて、思はず彼女の息を塞らせたことがあつた。——何故余が、斯る質問を発したか、と云ふと、それは母が、夜々、余が寝沈まつた後に、その箪笥のやうな格構の黒い書箱から、一二冊の書物を取り出しては、ランプの下で頁を繰り、或る時は涙を浮べ、或る時は、微笑を漂はせ、または溜息を衝き、余念もなく読書してゐる姿を、往々余は、夜着の間から半眼を視開く時に見て、不訝を抱いたからである。——朝になると、その書物は何時の間にか姿を消して、書箱の観音開きには堅く錠が下され、母の机上には、不景気なナショナル・りいどると、灰色のすゐんとん万国史等が悄然と積み重ねてあるばかりで、徒らに余の退屈をそゝつたからである。

余が、その質問を発した時、彼女が何と答へたか、忘れてしまつたが、以来余は、余の枕辺で読書する母の姿に接することが無くなつたので、一層余は好奇心を助長せしめられたのであつた。

母の旅行中のことだつた。或る日余は、盗賊の心となつて、鍵を盗み、母の黒い書箱の前に忍んだのである。——他人の整理物を掻き乱すことの、留守居中の持主に対するあの痛々しい悲しみは、左様に余の如き不道徳を行つたことのある少数の同志には、容易に理解して貰へるだらう。……余は、馴れぬ手際で、乱暴にガチガチと錠前をねぢつた。——それで、好く、開けられたものだつたが。

雑誌「文芸倶楽部」「新小説」などが、恰も夫々貴重な単行本でもあるが如く、背を並べて、

巻を追ひ、汚れもなく二側に羅列されてあるのも眼についた。書籍は、背文字のない雑誌形のものが過半数で、そこには貸本屋のそれのやうに一々自筆で、題名が記されてあつた。――余は、挿絵のありさうな書物を探した。

「風流線」それは、その時、その色彩りの挿画は、どんなに余の胸を怪しく震はせたことだつたか！　秘められた箱の中の、最初の不思議な書物だつた。泉鏡花といふ名前を初めて知つた由来である。鏡花の初期の作は、後になつて大方その箱の中から取り出して読んだ。寡読家の余が「たけくらべ」を読んだのも、「不言不語」を読んだのも、此の文庫のたまものである。

「金色夜叉」は、探したが見つからなかつた。

なんだか、文庫の錠前の工合が悪くなつたやうだ――旅から帰つて来た母が、斯う誰かに滾してゐるのを耳にして、余は、秘かに慄然としたことを憶えてゐる。続いて送られてゐたニューヨーク・ヘラルドの日曜絵附録に、桜の木のジョージ・ワシントンが現れた時、余は、母に秘かに赤面したが、何としても白状出来なかつた。――だが余は、桜の木のジョージには少しも感心してゐなかつた。あんなことなら誰にだつて白状出来る――そんな不平を感じた。

二つの文庫については、余の東京遊学中、帰郷した或る時、もう大胆に（なぜなら余は既に堂々たる文科大学生だつたから）、母に訊ねたところが、彼女は、たゞ寂しげな微笑を浮べただけで、余の異様に熱心な問ひをごまかした。

「文庫」の記憶をたどると、いつも一番先に余の眼底に髣髴とするのは「風流線」である。

（病中不備・十四・三・二〇・東京郊外の寓居にて）

青空文庫情報

底本：「牧野信一全集第二巻」筑摩書房
　2002（平成14）年3月24日初版第1刷
底本の親本：「新小説　第三十巻第五号　臨時増刊「天才泉鏡花」」春陽堂
　1925（大正14）年5月1日発行
初出：「新小説　第三十巻第五号　臨時増刊「天才泉鏡花」」春陽堂
　1925（大正14）年5月1日発行
入力：宮元淳一
校正：門田裕志
2011年5月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

余話（秘められた箱）

牧野信一

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/